

情報リテラシー業務

大阪市立大学学術情報総合センター

中村 健

本日の構成

- 情報リテラシーとは
- 情報リテラシーに関わる事例紹介
- 課題と展望
- 図書館員が情報リテラシー教育を実施するのに必要な知識とスキル
- 実習(5分)

情報リテラシーとは

情報リテラシーとは

- 定義

「情報が必要なときに、それを認識し、必要な情報を効果的に見つけ出し、評価し、利用する」ことができるように、個々人が身に付けるべき一連の能力

ACRL (2000.1.18)

情報リテラシーとは

- 定義

情報を反省的に発見し、情報がどのように生産され
価値づけられるについて理解し、新しい知識を想像
しかつ学習の共同体に倫理的に参加するのに必要
な情報を利用する際に必要となる能力の総体

ACRL(2015)

情報リテラシーとは

・定義

「高等教育の学びの場において必要と考えられる情報活用能力」

課題認識→解決のために必要な情報を探索・入手
→分析・評価→整理・管理→批判的検討→知識の再
構造化→発信

「高等教育のためのリテラシー基準」2015年版 p8

情報リテラシーとは

・変遷

	答申やまとめ	ポイント
2010(H22)	大学図書館の整備について (審議のまとめ)	図書館職員は？の支援者と定義
2012(H24)	新たな未来を築くための大学 教育の質的転換に向けて(答 申)	「待ったなし」の学士課程の質的転 換
2013(H25)	学修環境充実のための学術 基盤の整備について(審議の まとめ)	アクティブラーニングの推進 「場」としての図書館
2015(H27)	高等教育のための情報リテ ラシー基準 2015年版	各プロセスで使える基準

情報リテラシーとは

・類似の概念

	ざっくりとした定義	情報リテラシーとの違い
図書館オリエンテーション	初歩的な図書館の利用法を指導する	図書館利用教育の一要素
文献利用指導	情報をより効果的に入手し利用する方法を修得を目指す活動	図書館利用教育の一要素
図書館利用教育	図書館を含む種々の情報源の効果的な利活用を目指す活動	情報リテラシー教育の一要素
ICTリテラシー	コンピューターなどの利用する力	コンピューター・ネットワークの利用など技術的なものに限定されている。
メディアリテラシー	マスメディアやWEBなどのメディアを理解する力	情報リテラシーを構成する重要な要素

情報リテラシーとは

- ・実践にあたって

- 多くの研究者や実践者の指摘→

従来の図書館利用教育のように図書館だけ完結した活動ではいけない。

例) 各学部に「情報リテラシー教育」がある

例) 主要な情報源はWEBやDBなど図書館外に移行している。

全学の各教育プログラムと連携することが不可欠

情報リテラシーに 関わる事例紹介

プログラムを再編成 – 大阪市大

これまでの構成

- OPAC講習会（おもに1回生前期）
OPACの使い方、図書館の使い方
- オーダーメイド講習会（1回生以降）
各データベースの操作説明
- データベース講習会
業者による操作説明
- 英語論文投稿講座
出版社と連携した投稿システム講習会

既存のプログラムをどのように再定義するのか

プログラムを再編成－大阪市大

・目標を明確化

WEBの検索が一般的になり、一方で図書や雑誌といった紙の資料、マイクロフィルム、ビデオなどのマルチメディア資料に触れる機会が急速に減っています。学術的な研究・調査を行うには、これらのメディアを総合的に活用する能力が必要となってきました。

学情職員が開催するガイダンスでは、WEBデータベースの実習とともに、適宜、紙の資料も紹介し、情報リテラシーの総合力向上を目指します。

◇基礎編 OPAC検索／指定された文献の検索

◇応用編 検索キーワードの展開／ブール演算子 (and・or・not) の利用

◇発展編 データベース・検索式・キーワードの見直し／ILLの活用

プログラムを再編成 – 大阪市大

- OPAC講習会

OPACを使って本・雑誌の所蔵を探す。

図書館の利用方法

+

図書・雑誌の「モノ」の理解

CiNii Articlesをメインにした論文・雑誌検索

WEBサービスのPR

今の若者は「雑誌」「新聞」を実感できない世代になった。

プログラムを再編成 – 大阪市大

- オーダーメイド講習会(1回生後期以降)

教員からの要望

グーグル以外の検索の世界を見せてほしい
紙と電子をそれぞれに意識させてほしい



冊子体と電子版の連続性を意識させた実演と課題
構成をモジュール化

【検索技術】

【資料種別に対応するDB】

【著作権】【紙の実感】

※ 資料種別...→Discovery Serviceがいる！？

他のプログラムとの
連携を意識する

プログラムを再編成 – 大阪市大

- CiNii Articles講習会 CiNii Articlesの操作講習(90分)



時間を短縮化し、日本語論文の発信まで見据えた2部構成のプログラム構成に変更、試行錯誤中

基礎編(60分): CiNii Articlesの操作、実習、著作権

発展編(60分): 全文検索と書誌検索の違い

日本語論文のSEO対策

J-STAGE,機関リポジトリに登録する意義



NII系データベースの説明は図書館が一番腕を振るるところ

プログラムを再編成 – 大阪市大

新聞データベース講習会

「新聞」を「モノ」として理解させる。

課題によって原紙／縮刷版／マイクロフィルム／DBの
どれを使うが早くて有効かを理解させる。

課題解決はWEBだけではないことが示せるメディア

検索だけでは適切な記事をヒットさせられない
課題例)

大阪万博開幕

- ・開幕式の写真が一面を飾るイメージの共有
- ・検索キーとして「日付」と「面」が不可欠

課題) 参加者が少ない

プログラムを再編成 – 大阪市大

- データベース講習会

ベンダー・書店による操
作説明と実習



図書館員による
情報リテラシーガイド

- ・異なるメディアでの情報
検索法
- ・別会社のDBでの
情報検索法

図書館員が介在することにより情報リテラシー講習にすることが可能

プログラムを再編成 – 大阪市大

- 英語論文投稿講座

2015年から年2回開催

Elsevier, Springer, Nature, Wiley, Clarivate Analytics

出版社による英語論文投稿講座

論文投稿に必要な知識

研究倫理

オープンサイエンスに対する各社の対応

プログラムを再編成 – 大阪市大

・再編成の結果

▶「課題認識」から「発信」までに対応した編成

▶動員数

増加(バリエーション増および開催回数増)

英語論文投稿講座の伸びが新聞DBやDB講座の落ち込みをカバー

日本語論文検索講座は横ばい

▶評価

↑ 教員はみな同じような要望を持つ

(その思いに応えた内容に近づけるため日々リニューアル)

プログラムを再編成 – 大阪市大

- ・課題

- ・集合実習の難しさ

- 動画に対する要望が高い

- モジュール化

- ・対象の拡大が不可欠

- 対学生だけでなく対教員

- 学部・研究科と連携しやすい「空気」が生まれる

- ・運用体制について

- チーム運用に加えてワンオペ運用

課題と展望

課題

展望

図書館員が
情報リテラシー
教育を実施する
のに必要な知識
とスキル

図書館員が必要なスキル

- 教育 (ソフト)

 - メタデータに関する知識

 - コーディングマニュアル、jinii2, JPCOAR

 - ワイルドカードなどの検索知識

 - プレゼンの知識

 - データベースや資料に対する知識

- 場を作る (ハード)

 - アクティブラーニング什器

 - ICTの操作方法

このコマで参考にした資料（最近のものを中心に、論文、図書の順で並べています）

定義

岡部 幸祐「高等教育のための情報リテラシー基準 2015 年版の策定経緯と活用方法」『大学図書館研究』105、2017

野末 俊比古「教育・学修支援と情報リテラシー教育 - 「新しい学び」を実現する大学図書館へ-」『大学図書館研究』105、2017

野末 俊比古『変わりゆく大学図書館』勁草書房、2005

事例（主に図書系に関するものですが、ここに掲載した以外にも多くの方が事例を発表されていますので、CiNii Articlesなどで検索してみてください。）

「小特集 知の変容と大学図書館」『大学図書館研究』107、2017

常川 真央, 小野 永貴「記憶するラーニング・コモンズ」

松原 悠, 斎藤 未夏, 石津 朋之, 大山 貴稔, 佐藤 まみ子, 新村 麻実, 野村 港二「筑波大学中央図書館ラーニング・コモンズにおける大学院共通科目「ザ・プレゼンテーション」の実施」

栗山 正光「日本の大学生の読書を中心とした情報行動をめぐる状況」『大学図書館研究』105、2017

柴野京子「デジタル・ネイティブと出版・メディア教育」『出版研究』47、2016

竹内比呂也「大学図書館における教材作成支援：電子情報環境下での教育・学修支援として」『図書館雑誌』110 (12)、2016

兵藤 健志, 渡邊 由紀子「図書館職員をハブとした情報リテラシー教育の展開 -九州大学の実践をもとに-」『大学図書館研究』105、2017

市古みどり編著；上岡真紀子, 保坂睦著『資料検索入門：レポート・論文を書くために』慶應義塾大学出版会、2014

課題と展望

坂本拓「＜座標＞研究支援としての情報リテラシー教育」『図書館界』69 (5)、2018

坂本俊「大学図書館における情報リテラシー教育の転換の必要性」『京都女子大学図書館情報学研究紀要』4、2017

根本彰『情報リテラシーのための図書館：日本の教育制度と図書館の改革』みすず書房、2017

スキル

梅澤 貴典「オープンアクセス時代の学術情報リテラシー教育担当者に求められるスキル」『大学図書館研究』105、2017

矢野恵子「大学図書館における情報リテラシー教育のアウトカム・アセスメント手法」『大学図書館研究』105、2017

飯尾健「大学図書館による情報リテラシー教育における評価の検討・学習評価の構図に基づいて-」『京都大学高等教育研究』22、2016

図書・雑誌・論文の目録・書誌を作成するのに必要な目録規則・ガイドライン

図書 『日本目録規則』『目録情報の基準』『CM』（コーディングマニュアル）

雑誌（プリント版）『日本目録規則』『目録情報の基準』『コーディングマニュアル』

雑誌（電子版） ERDB-JP ガイドライン

論文（電子版） junii2（ジュニーツ）、 JPCOAR（ジェイピーコア）

NIIの学術情報リテラシー教育担当者研修(H27 終了) に掲載の資料

国立情報学研究所教育研修事業 (<https://www.nii.ac.jp/hrd/index.html>)

> 終了した研修・講習会等 > 学術情報リテラシー教育担当者研修（～平成 27 年度）

図書館員が、利用者の ? に応えるときに助かるメタデータ知識（抜粋）

Q1. OPAC でキーワード検索をするときに Google みたいに文章で入れたらヒットしないのはなぜですか？

A. CiNii Books や NC-CAT では、検索語は分かち書きされたヨミから検索用インデクスが作成されます（『目録情報の基準』11.3）。また、ローカルの OPAC などでは、必ずしもこれに準じませんが、独自に単語単位で検索インデクスを切り出します。この仕組みになっているので、文章ではなく、「単語」で検索というのが基本になってきます。

Q2. CiNii Articles で検索をするときに OR 検索がなぜ必要なのですか？

A. 目録規則・ガイドラインでは論題や雑誌名はどのように定義されているのでしょうか？
雑誌名は「本タイトルは、原則として、表示されているまを記録する」（コーディングマニュアル 6.2.1F）、ERDB-JP のデータ作成ガイドラインでも「プリント版の刊行物またはウェブサイトに表示されているタイトルを完全な形で記述する」と、指定された情報源に記された「ひとつの記述」を「転記」となっています。それ以外の雑誌名は「VT」など別の項目に記入することになっています。この考えは、機関リポジトリのガイドラインである junii2、JPCOAR でも、踏襲されていて、論文に書かれた「ひとつ」のタイトルを title に記入し、それ以外のタイトルは「alternative」に記入するように指定されています。必ずしも DB が正規化してくれるか不明ですので、検索者が思いつくキーワードを OR でつなげて補記する必要があります。また、タイトル（論題・雑誌名）に関して検索上に必要な言葉があるときは、VT や alternative にどのように記入するかを相談する必要があります。

JPCOAR（論文名）

No	項目名 (日本語)	要素名	記入レベル	繰返回数	説明	注
1	タイトル	dc:title	M	1-N	コンテンツのタイトル。論文の場合、論題である。コンテンツ本文と同じ言語のタイトル情報は必ず記入する。タイトルの言語情報はxml:langに記入する。	タイトル情報が複数言語ある場合は、要素を繰り返して記入する。ただし、各言語コードのdc:titleの出現回数は1回までとする。優先度の高い言語表記の順に記入する。目次タイトル、兼任タイトル等がある場合は、dc:term:alternative（その他のタイトル）に記入する。コンテンツが図書の一部（章など）である場合、dc:title（タイトル）には章などのタイトルを記入し、図書全体のタイトルはjpcoar:relation（関連）に記入する。当りの言語情報はxml:lang="ja-Kana"とし、片仮名で記入する。また、当三を記入する場合は、xml:lang="ja"の情報を必ず記入する。

ERDB-JP データ作成ガイドライン（雑誌名）

項目(英語)	項目(日本語)	KBART項目名	必須	ガイドライン
Title	タイトル	publication_title	*	<p>プリント版の刊行物またはウェブサイトに表示されているタイトルを完全な形で記述する。特殊文字は文字コード「UTF-8」を使用して記述する。省略形や略語は記述しない。</p> <p>冠詞を含めること。例えば、「The Holocene」は「Holocene」ではなく、正式名称である「The Holocene」を採用する。</p> <p>定期刊行物(雑誌や会議録)には、固有のタイトルを記述する。</p> <p>変遷前誌は、当該タイトルが使用された期間を記述し、独立したタイトルとして登録する。</p> <p>モノグラフ(会議録における個別タイトルまたは電子書籍)は、個別タイトルとして登録する。</p> <p>パッケージ(コレクション)は個別タイトルとしてレコードを作成せず、ファイル名として記述し、別ファイルとして流通させる。</p> <p>会議録のシリーズは、定期刊行物として扱い、シリーズ内の個々の刊行物はモノグラフとして扱う。</p> <p>【ナレッジベース管理者向け補足】 関連するタイトル同士が適切にリンクできる仕組みを構築する。</p>

Q3. ISSN で OPAC を検索しても、ヒットしないときがあります。なぜですか？

A. ISSN は、目録を作成する際に必須 2 というレベルの項目です（コーディングマニュアル 1.0.1E および 6.1.15 A）。「適用可能な情報、又は容易に入手可能な情報が存在する場合、常にデータ記入を行う」というものですので、入っていないか、更新されていないか、また目録はプリント版が主ですので、電子版の ISSN が入力されていないことがあります。ISSN はリンクリゾルバー→OPAC へのリンク・キーになっていますので、メンテナンスの意味からも、重要性は高まっています。情報源は「どこからでもよい」（コーディングマニュアル 6.1.15D）ので、是非、入力を増やしていきたいものです。